

# 観光・交通を充実させ 東京・大阪を超える都市へ

中部運輸局長

鈴木 昭久氏



## 新 一 転機

昭和三十六年六月、神奈川県出身。昭和五十九年三月、東京大学法学部卒業。同四月、運輸省入省。平成十四年七月、国土交通省大臣官房人事課企画官。二十一年七月、観光庁観光産業課長。二十三年十月、国土交通省自動車局旅客課長。二十五年六月、気象庁総務部長。二十七年七月、国土交通省中部運輸局長就任。

【名古屋の課題】名古屋は米国北部の大都市のような印象が強くあります。車社会を見越した道路の広さ、地下街の発展という日常の充実の反面、路上の人通りが少なく、イベントや観光などの、非日常の賑わいが埋もれがちです。潤沢な観光資源を持っているのに、外からの人への間口が狭い現状を、非常にもったいなく感じます。

【観光】中部管内の主要な観光地には、名古屋の人よりも行っていると思います。数少ない休みの日には、妻と街歩きやサイクリングをして、市内を探検しています。また、趣味のドライブを兼ねて観光するのですが、車だとスポットとして観光地に訪れがちな面があります。これから冬にかけては、ローカルな私鉄や高速バスなどを利用して、少しディープな地域を巡る観光をしたいと思っています。

【特別警報の周知】前任地では紫色で表示される特別警報を導入したので、その周知活動が印象に残っています。気象予報士のテレビ解説の充実や、スカイツリーの照明を紫に変えるなどの活動を通し

て、どうしたら実際の避難につながるかが、行政機関と一般国民の両面に伝わるように努力しました。

【鶏鳴狗盗】この言葉は、敵国からの逃亡のために、二人の食客の持つつまらない芸で将軍が脱出できたという故事が由来です。取るに足らない人間という意味と、無用な才能でも多面的に見れば役に立つという二つの意味を持っています。人事の際、その人のいいところを活かしていくように心がけ、同時に自身を戒める言葉でもあります。

【抱負】中部運輸局には二つの大きな課題があります。まず観光では、「昇龍道」の知名度向上により、次の段階として具体的な広域周遊ルートの開発をサポートしていきたいと考えています。次に公共交通の充実です。リニアのインパクトはとて大きく、名駅を「迷駅」と揶揄されないうために交通機関の乗り継ぎを円滑にする整備を行い、加えて駅周辺の開発を進めることで、東京・大阪を超える国際都市にするためのお手伝いをしたいと思っています。